

地域を基盤とした

ソーシャルワーカー養成のための

実習教育のありかた

家族や地域、そして雇用環境が大きく変化する中で、社会的孤立の問題が深刻化し、既存の制度では対応できない制度のはざまの問題や、複雑な課題を抱えた世帯の問題などが顕在化している。2018年4月には、社会福祉法が改正され、市町村が包括的な支援体制を構築する責務が定められたが、社会福祉士には、ソーシャルワーク専門職として、包括的な支援体制の中核的な役割を担うとともに、様々な専門職や地域住民、分野や領域を越えた多様な人や機関とつながりながら、人や世帯、そして地域や社会に働きかけていくことが求められている。一方、社会保障審議会福祉部

会福祉人材確保専門委員会は、社会福祉に求められるこうした役割を發揮していくためには、社会福祉士の養成カリキュラムを見直すべきであると提言し、現在その議論も進められているところである。

本シンポジウムでは、こうした動向を踏まえながらも、先駆的に地域を基盤としたソーシャルワーク実習に取り組んできた3つの地域の取り組みを踏まえ、新しい時代に求められるソーシャルワーク実習のあり方について、養成校・現場から積極的に提言していく機会としたい。



2019年

2/22



13:30~16:30
(受付 13:00~)

同志社大学 新町キャンパス

臨光館 301 (会場はキャンパスマップでご確認ください)

参加申し込み・お問い合わせ先

準備の都合上、**2月15日(金)**までに、下記アドレスまでタイトルを「**参加申し込み**」として「**ご所属**」「**氏名**」を本文に記載の上、ご連絡ください。

参加申込先：朴 薫彬 (パクヘビン) (同志社大学社会福祉学科実習指導室)
e-mail: ji-sha05@mail.doshisha.ac.jp

問い合わせ先：永田 祐 (同志社大学社会学部社会福祉学科)
e-mail: ymagata@mail.doshisha.ac.jp

program

基調講演

13:35~14:35

地域共生社会の実現と 社会福祉士の役割

◆ 講師

後藤真一郎 (全国社会福祉協議会・前厚生労働省地域福祉専門官)

シンポジウム

14:45~16:20

地域を基盤としたソーシャルワーカー 養成に向けた実習のあり方を考える

◆ シンポジスト

森脇 俊二 (氷見市社会福祉協議会)

大田 勝信 (都城市社会福祉協議会)

五嶋 仁 (大樹会 理事 経営企画室長)

◆ コメンテーター

後藤真一郎 (全国社会福祉協議会・前厚生労働省地域福祉専門官)

◆ コーディネーター

永田 祐 (同志社大学)



本シンポジウムは、一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟『包括的相談支援及び地域課題解決体制を担うソーシャルワーク人材育成体制の構築及びそのパイロット事業の実施に関する調査研究事業』（厚生労働省平成30年度社会福祉推進事業補助金による事業）の一部として行われます。